令和７年度 事 業 報 告 書

自　　令和７年　４月　１日

至　　令和８年　３月３１日

令和８年　６月８日

学校法人　金蘭千里学園

１．法人の概要

単位：名

項　　目	高　等　学　校	中　　学　　校	備　　考
設 置 す る 学 校	金蘭千里高等学校	金 蘭 千 里 中 学 校	
入　学　定　員	１８０	１８０	
在 校 生 徒 数	５０５	６０５	令和７年５月１日現在
教　職　員　数	５７	６０	令和７年５月１日現在

２．事業の概要

・金蘭千里中学校、高等学校における事業の基本的な概要

以下の項目・内容を基本・原則として、教育事業を展開する。

□男女共学　１学級３０人

□学習指導

○カリキュラム

併設型中高一貫校としてのカリキュラムによる効果的、効率的学習
英語・数学・国語は、基礎科目として時間増
理科・社会は、広範な科目を履修することによる幅広い進路選択への対応

○２０分テスト

通常授業を重視し、月～金曜日に成績評定を決する復習テストを実施し、成績状況を授業や個別指導にフィードバックすることによる学力の向上、定着

○特別授業

学力の補足、練成のための、夏季・春季長期休業期間における特別授業の実施

□生活指導

担任を中心とした個人指導の徹底

□スポーツ

○校技

男子はサッカー、女子はバレーボールを校技と定め、６年間を通じた指導により全生徒が共通のスポーツとして習得

○他種目

校技に加え、学年によってテニス、バスケットボール、卓球、ハンドボール、バトミントン、男子バレーボール、女子サッカーを選択履修

□国際理解／キャリア教育

○「日常」と「異文化」の相対化と「体験」による「知識」の裏付けによる「弾力的国際人」を育成するためのカリキュラム

○中高６年間の発達段階と生徒の個性と能力に応じた進路指導のため、外部講師による講演や職業体験などを通じた、単なる大学進学指導に止まらない幅広い進路指導

・ネイティブ・スピーカーである教員による英語指導
・外務省や国際機関、外国公館を通じ派遣された専門家による、国際事情の理解を深めるための講演
・民族学博物館の見学による異文化理解
・イギリス海外研修（イートン校・ハロウ校）＜希望者のみ＞
・能楽、狂言、茶事、落語といった日本の伝統文化体験
・本校卒業生による進路決定に至る体験の講演
・職業選択に至るプロセスに関する講義や、医療従事者、起業家等の専門家を招いた講演

□野外活動
○キャンプ・自然研修
各学年キャンプ又は自然研修旅行の実施による自然体験
○徒歩訓練
北摂の自然に触れるオリエンテーリング形式の行事の実施
□情操教育
○音楽鑑賞
国内外の一流のアーティストによる演奏鑑賞の実施
○合唱祭
中学生が運営企画するクラス対抗の合唱コンクールの実施
□情報教育
整備されたＩＣＴ環境を活用し、ｅメール、インターネット等の基礎技術の修得や各教科学習の補助に資するにとどまらず、情報化社会に対応する情報処理モラルの涵養
□自主性の涵養
○クラブ活動の充実を図ることにより生徒の多様性に対応するとともに、生徒に多面的な負荷をかけることにより「勉強を頑張りクラブ活動も頑張る」スタイルを確立させ、多彩な活動ができる人材を育成
○生徒会活動や、文化祭、体育祭の運営を通じ独創性と自発性の涵養

・当年度における主な事業計画

□創立６０周年記念事業の実施
○記念式典の開催（１１月開催で準備中）など記念事業を実施し、生徒、保護者、卒業生及び教職員の関係を深めると共に、既に制定した６０周年ロゴなども活用し、広報募集活動を強化する。
□校地内施設、設備の整備、更新
○グラウンドが改修時期を迎えたことにより、人工芝化による更新改修を実施する。
○自転車による通学生徒の増加を受け、駐輪場の増設を行う。
□「探求部」プログラムの導入
○生徒の問題解決能力の育成、外部との関わりを強化することにより、キャリア育成の深度化を図り、さらには大学の総合型入試への対応とすべく、授業の枠を超えて自由研究から発表に至る「探求部」プログラムを導入する。

・当該計画の進捗状況

□創立６０周年記念事業の実施
○令和７年１１月７日に記念式典及び祝賀会を挙行し、来賓約２００名、本校関係者約１２００名、延べ約１４００名を動員した。また令和８年度には記念事業の一環として、周年誌の発行、グラウンド改修工事、校舎内トイレの和洋改修工事を予定している。
□校地内施設、設備の整備、更新
○グラウンド改修工事は金蘭会学園と境界明示等の打合せ等が必要となったため、令和８年度に延期された。
○自転車による通学生徒の増加を受け、令和８年３月に１５０台分の駐輪場の増設を完了した。
□「探求部」プログラムの導入
○探究部初年度として高１・高２を対象に活動を開始し、約半数の生徒が参加した。２５研究室で計７５テーマの研究に取り組み、２月には探究ウィーク・探究デー（発表）を開催した。大阪大学や神戸大学と連携する研究室もあり、学会や他校で発表する生徒も見られた。

以上